

令和6年度 第1学年 学年経営方針

墨田区立錦糸中学校

1 学年目標

- (1) やるべきことをまずやる
- (2) 自分の意見を持ち、正しく判断し、進んで行動する
- (3) 他の意見に耳を傾け、認め、思いやり、協力する
- (4) 夢をもち実現するために、目標を掲げ努力する
- (5) 喜怒哀楽を表現する

2 学年経営方針

- (1) 学習意欲を高め、基礎基本を固める
- (2) 自主自立の助長を促す
- (3) 自己実現の土台を固める
- (4) 毎日の学級活動や行事を通し、リーダーを育てる
- (5) 家庭との連携、外部機関との連携を深め、協力して生徒と関わる

3 指導の重点

(1) 学習指導に関して

- ・授業規律の確立をめざし、安心して学習できる環境を作る。
- ・家庭学習を推奨し、基礎・基本の定着を図り、学力の向上をめざす。
- ・教科担任と学級担任の連携を図る。
- ・「やればできる」という達成感を味わえる学習活動を展開する。
- ・家庭学習の習慣化を進めるために、良い学習方法を学年・クラスで紹介する。
- ・全体のレベルアップを図るため、教え合い学習、協働学習を推進する。

(2) 生活指導に関して

- ・学級委員会、班長会の充実を図り、生徒の力でよりよい学年をつくらせる。
- ・教師相互の情報交換を密にし、生徒理解に努める。
- ・毅然とした姿勢で指導にあたり、善悪を正しく判断させる。
- ・挨拶・礼儀を大切にし、公共の場での過ごし方を考えられる生徒を育成する。
- ・適材適所を見極め、リーダーを育て、生徒相互の自治力を高める。

(3) 進路指導に関して

- ・3年間を見通した計画的な進路指導を行う。
- ・自己をよく理解し、将来の進路についての関心を高め、進んで自己の進路を計画する生徒を育成する。
- ・他を認める力を養い、周りの人から多くを学ぶ力を身に付けさせる。

(4) 行事指導に関して

- ・生徒の主体的な活動をすすめ、充実感・達成感を味わわせる。
- ・一人一役を徹底し、学年集団の一員としての自覚と責任をもたせる。
- ・教師自らが行事を楽しみ、生徒と一緒に熱い思い出をつくる。

(5) 家庭との連携に関して

- ・保護者との連絡を密に取り、生徒に関する情報を共有する。
- ・家庭で学校に関する話題が上がるような取り組みを行う。

4 経営方針の具体策

- ・時間を守らせる。学活、授業、集会、給食、清掃など、生徒とともに活動し、時間厳守の徹底を図る。
- ・身だしなみをきちんとさせる。服装の乱れなど生徒の様子の変化に注意する。気になることがあれば学年教員で共有し、指導に当たる。また、違反物、不要物の持ち込みを見逃さず指導する。
- ・挨拶を励行する。まず教師が声をかける。朝の「おはようございます」、授業の「お願いします」「ありがとうございます」、帰りの「さようなら」をきちんとやらせる。良くない場合はやり直すことも考える。
- ・学校生活の基本は授業である。授業規律を確立した上で、意欲的な生徒を育てたい。生活指導に重きを置きすぎないように指導。教師自らが授業を大切にする姿勢を示す。
- ・給食・清掃の当番活動をしっかりやらせる。その手順をしっかりと覚えさせるために、まずは生徒と共に活動する。年度末にはリーダーが中心となり自分たちだけで活動が出来るようにする。
- ・教室、学年フロア的环境整備に心がける。落書き、破壊・破損を見逃さない、させない。
- ・朝の始まりを大切にする。学年の打ち合わせはナンバーズでやりとりする。朝読書をきちんとやらせる。
- ・基礎学力充実のための時間を設定する。錦中コンテストへの取り組み、長期休業中における学習教室の開催。また、検定受験を促し、他との比較ではなく自己のレベルアップに向け努力させる。
- ・学年教員が、全クラスの担任であるという意識をもつ。
- ・一人一人の教師が一人一人の目で生徒を見て、先入観にとらわれないようにする。
- ・不正は絶対に許さないという厳しい姿勢をもち続ける。その一方で、その生徒を広い視野で見ている、前向きな言葉かけを意識する。
- ・指導は複数で行うよう心がけ、適切な指導が行えるようにする。
- ・進路決定に向け卒業後の自分を常に意識させる。
- ・「罰」を念頭に置いた生活指導ではなく、生徒が主体的に良い行動をしようとする指導を目指す。ただし、将来に向け現在の状況を改善させるべき事項を丁寧に伝えることは重要である。
- ・保護者会、三者面談等では、動画や写真を効果的に用いて、生徒の学校での様子を保護者に見てもらう。
- ・学年便りを通じて、生徒の様子や学年の指導方針を保護者に適宜共有する。